

環境保全と再資源化への提言誌

# 月刊廃棄物

Monthly the Waste Vol.46 No.593

since 1975

2020  
August  
8

## ■特集 処理困難物の新たな課題

■特別寄稿 アメリカにおける新型コロナウイルスに対する取り組みの動向(下)

■連載 浅利美鈴の学生と訪ねる3Rの現場

■連載 新 廃棄物のやさしい化学



東京都内で食品リサイクルの貴重な受け皿となる羽村バイオガス発電所

Topic

民間

### 食品リサイクル発電の都市型施設が東京で竣工 羽村バイオガス発電所

東京都羽村市で、アーキアエナジー(株)(東京都港区)がプロジェクトを企画・運営し、建設を進めてきた羽村バイオガス発電所が、このほど竣工した。食品廃棄物など1日当たり約80t処理、年間約770万kWh時の発電能力を持つ施設で、産業廃棄物処分業の許可取得を待って、8月にも営業運転を開始する。7月9日には、竣工式が行われ、羽村市長をはじめ関係者が出席した。

工業専用地域の1000坪の敷地に建設された同発電所は、前処理棟、発酵槽、排水処理設備、発電設備で構成される。近隣と都内から受け入れた食品残さなどからバイオガスを発生させ、1100kWの発電機を24時間稼働させてつくった電力を、東京電力エナジーパートナー(株)に売電する。施設は、合同会社羽村バ

イオガス発電を運営主体に、(株)西東京リサイクルセンター(羽村市)がオペレーションを行う。原料の受け入れを開始後、順調に行けば、10~11月には発電を開始できる見込みだ。

事業計画に当たってアーキアエナジーでは、当初から▽原料の収集、設備の運営、発生した電気やその他生産物の消費までを完全に「地産地消」で行う▽補助金等を使わず、全額民間資金によるプロジェクト・ファイナンス方式で資金調達する▽工事や完成後の運営も可能な限り地元企業に委託し、地元経済の活性化に寄与する——の3点を事業の特徴に掲げてきた。

具体的に「地産地消」の部分では、近隣または都内の事業所から1日当たり約80tの食品残さを受け入れてメタン発酵・ガス化し、最大で地元地区の全世帯数を上回る2100世帯分相当の電力を

DATA

所在地	東京都羽村市
運営主体	合同会社 羽村バイオガス発電所
許可	産業廃棄物(動植物性残さ・汚泥・腐酸・腐アルカリ・廃油)、一般廃棄物(厨芥類等) ※順次取得予定

供給する。将来的には、発酵後に残る消化液を農地還元することも視野に入れる。資金調達の部分では、総事業費35億円のうち、22億円相当の設備について三井住友&リース(株)からプロジェクト・ファイナンス型のリース契約を締結しており、これも事業方針に沿ったかたちとなった。

同発電所は、アーキアエナジーが企画・運営したプロジェクトとしては、2017年に竣工した牧之原バイオガス発電所(静岡県牧之原市)に続く第2の工場となる。「地産地消」や「地元貢献」にこだわった事業方針も、牧之原のプロジェクトから一貫して引き継いだ格好だ。

植田徹也社長は竣工式のあいさつで、用地取得から4年の歳月を経て竣工にいたった経緯に触れ、「ようやくスタートラインに立つことができた。地元貢献し、雇用創出と安心・安全を提供しながら操業していきたい」と意気込みを語るとともに、「牧之原の工場を立ち上げてから、さまざまなトラブルにも見舞われたが、1つひとつ腰を据えて解決し、今導入したプラントのレイアウトや機器の選定につながった。まさに牧之原の経験の上に成り立った工場」と述べた。

(本誌・新倉)